競輪場改修2.9億円に質疑集中

本多啓三氏また〝本領〟発揮

略式採決を挙手採決に

両本多、田中、赤川氏が反対

村長の説明に『言葉では何とでも』とヤジ

小林村長 証拠を出して、証人喚問を

答弁する小林村長

弥彦村議会九月定例会は十日午前十一時五分から競輪特別委員会（安達丈夫委員長・委員十人）を開き、平成三十年度競輪事業特別会計補正予算を賛成多数で可決した。

弥彦村議会競輪特別委員会

特別会計補正予算では、総括質疑に続き、競輪場の施設整備改修工事費二億九千五百万円に質疑が集中。本多隆峰氏（無所属）は設計・管理業務のプロポーザルの結果、最終的な契約金額について「実際いくらで入札、落札されたのか。ちょっと高いのでないかという考え方もある」と質問した。

高島公営競技事務所長は契約金額は三千二百万円として「次年度、また計画的にやるセダーハウスについても設計監理が発生する。これについては三十一年度の予算で再度お願いする」とした。

本多隆峰氏は六月定例会では三千二百万円の補正予算を議決しているこ とを指摘し、「何社か出て内容と価格を見て判断するのが当然。三千二百万円の予算だから三千二百万円なのか」と疑念を示した。

高島公営競技事務所長は「今回の業者には一社が辞退したことは知らせていない。競争という意味では競争はあるのでないかと考えた。対四の賛成多数で可決した。

本多啓三氏（無所属）は全体の設計・監理と、プラスワン・プランニング一級建築士事務所（新潟市）と共同企業体を組む二社の企業名を質問。

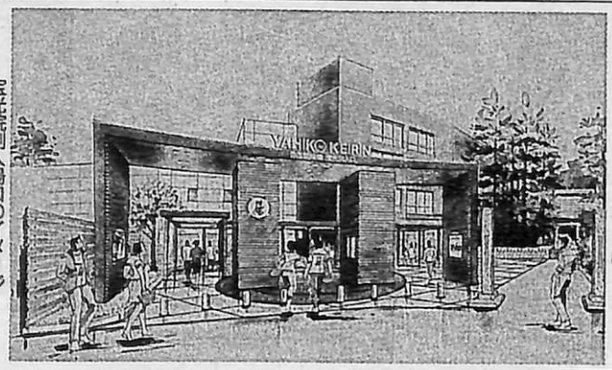
付託案件外では、高島公営競技事務所長が施設整備改修計画について説明。

弥彦競輪場では記念競輪（GⅢ）などを開催時に、記者席、来賓席として仮設観覧席を設置してきたが、設置工事費は、記念競輪では約二千四百万円、寛仁親王牌（GⅠ）で約四千四百万円と多額の費用がかかった。そのため施設整備改修では、常設の観覧席を新設するとともに、老朽化した入場口やフェンス、さらにセダーハウスの内装などを改修する。

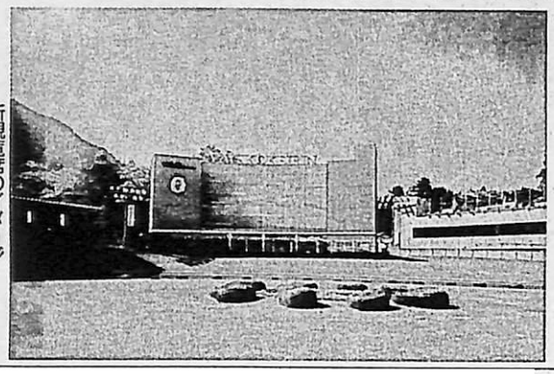
新観覧席の設置場所は宝光院側入場口付近。建物は四階建てで、記者席は現在のロイヤルルームに移し、二階をロイヤルルームとする。三、四階を来賓席などの多目的室として、災害時の避難所、セダーハウスの内装は、セダーハウスの内装などの一億五千万円程度かかる見込みで全体では七億円程度と説明。セダーハウスの実施設計で七百五十万円程度が追加になる予定で、全体の設計・監理は四千万円程度との見込みを示した。

質疑のあと、発言を求めた小林村長は「（毎年、仮設観覧席を設置する）無駄なことはやめようというのが元々の発想。反対した四人には従来のやり方をしろと言っている」と理解すればいいのか」と、四氏の反対理由を逆に質問した。

田中氏、本多隆峰氏は改修の必要性などの詳細な説明を求め、性急な対応を批判。本多啓三氏は「言葉ではプラスワン・プランニングについて住宅地の中にある一般住宅で、看板をも掲げられていないなど無駄なことはやめようというのが元々の発想。反対した四人には従来のやり方をしろと言っている」と理解すればいいのか」と、四氏の反対理由を逆に質問した。

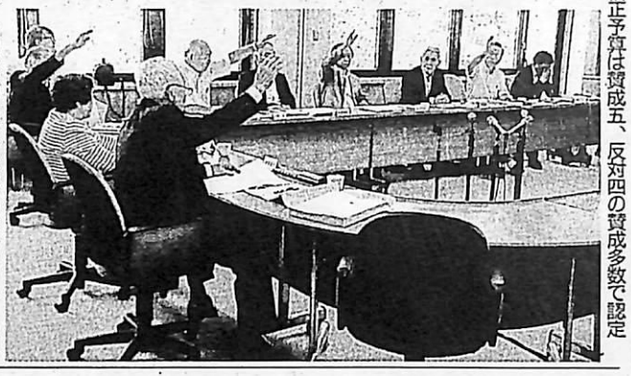


宝光院側入場口のイメージ



新観覧席のイメージ

弥彦村競輪特別委員会



補正予算は賛成五、反対四の賛成多数で認定

何とでも言える」などとヤジを飛ばすと、小林村長は「証拠を出してください。それだけの不当な理由で反対するなら議会で証人喚問すればいい。呼びましょうか、今度」と挑発した。

委員会は午後〇時十分ごろ終了した。